

1 取組概要

2019年に、地域おこし協力隊として地域住民、行政と共に空き家を活用した交流拠点「てま里」（読み：てまり）を立ち上げました。協力隊卒業後も継続して、自身の事業としてゲストハウス（簡易宿泊施設）と、子どもを対象とした英会話教室の運営と共に、地域住民と旅人をつなぐ役割を担い、交流のきっかけとなるイベントを企画、実施しています。



2 取組前の地域の状況

- ・ 宿泊施設がないため、観光に繋がりがづらい
- ・ 徒歩圏内に飲食店がない
- ・ 公民館はあるけれど予約が必要、地域住民がふらっと集まれる場所がない
- ・ 個人が借りて維持するには広すぎて大変な空き家がある



3 「てま里」のなりたちと、自身の役割について

2017年上記の状況下のもと、大学生と地域住民が、賑わい創出をテーマにフィールドワークを行い、宿泊施設・カフェ居酒屋を併設した交流拠点を開くことを行政に提言しました。行政は改装費用の補助を行い、地域住民は、自分達の居場所はできるだけ行政に頼らず、自分達の手で維持管理することを決め、一般社団法人を立ち上げました。「てま里」は町の交流拠点の1つとしての立ち位置でありつつ、地域住民が地域活性を願い、協力しながら運営している場所です。

その中で、私は事業としてゲストハウスを営みながら、地域内外をつなぐ役割、関係人口創出を目指し活動しています。地域の人が主役となり、特技を活かした体験を提供することで、旅人に喜んでもらえ、生きがいを感じる。いきいきした地域の人に共感した旅人がいろいろな形で町に関わることで、町がどんどん面白くなっていけばいいなと考えています。名所ではないけれど、関わり合いの中でできた南部町の思い出は、大人の心、子どもの心にも色濃く残るはず。また会いたい、帰ってきたくなる場所を目指しています。

4 具体的な取組内容

●てま里オープン前

地域住民に広く周知を行い、てま里がどういう場所を目指しているか知ってもらい、思い入れを持ってもらうことを目指しました。

- ・鳥取県産材を使用し、近所の製材屋さんに製材してもらった木材でテーブル作り
- ・地元の野菜を使用したカフェメニュー案作り対決 など

●てま里オープン後

地域住民におとずれてもらうきっかけを作りとなるよう、多様なイベントを実施しました。住民の「私もやってみたい」の気持ちを応援してつなぎ、また旅人にイベントを開催してもらい、交流を行いました。

- ・文化交流員（韓国）とお菓子づくり
- ・子どもたちのタピオカジュース屋さん
- ・絵手紙教室、俳句教室 など



●コロナ禍

安心安全で、新しい形の交流を行いました。

- ・オンライン宿泊 など

●コロナ後～現在

南部町の人・場所を好きになってもらい、また訪れてもらえる場所を目指し、関係人口を育てることを目的としています。また地域の子どもたちにも自身の町を好きになってもらえるよう、地域の子ども向けのイベントも多数主催しました。

- ・地域の理解を深める講演会の開催、ワークショップのファシリテーション
- ・親子ワーケーション（ファミリーワーケーション）の実施

- ① 2021年4月 体験ツアー（てま里宿泊）
- ② 2021年12月 農家民泊・てま里（2泊3日）
- ③ 2022年11月 農家民泊・てま里（3泊4日）
- ④ 2023年8月 小学校体験入学（4泊5日）
- ⑤ 2024年7月 小学校体験入学（5泊6日）

- ・虫取りキャンプ
- ・梨の収穫とお菓子づくり など



5 取組の効果

宿泊施設運営の実績として、宿泊者が年間約500人、リピーターの方もおられ、町内の温泉や、飲食店を紹介すると皆さん喜んで帰って来られます。また交流スペースで宴会をしていた地域の方と宿泊の方が一緒に盛り上がり、英会話教室に飛び込みで参加してくれた海外の方が、生徒に手紙をくれたりと偶然の出会いが生まれています。

関係人口創出を目指した取り組みとして、親子ワーケーションに参加した方のアンケートで、全ての方が、1年以内に南部町に帰って来たいと回答し、実際1/3の方が来訪しています。体験を提供してくれた地域の方にも年賀状が届いたり、交流が続いています。

6 アドバイザー自身のPR

前職はイベントの企画運営を担当していました。また現役教師としてのファシリテーション力を活かして、参加型のワークショップを実施することが可能です。実際にお住まいの方の「やってみたい」気持ちを伺いながら、共にできることを発見、形にし、その地域にあった観光交流の提言を行います。